

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492601925	事業の開始年月日	令和3年4月1日
		指定年月日	令和3年3月30日
法人名	株式会社エクシオジャパン		
事業所名	アクア陽光台グループホーム		
所在地	(252-0226) 神奈川県相模原市中央区陽光台3-20-31		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計 18 名 ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	令和6年12月15日	評価結果 市町村受理日	令和7年4月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

2021年4月に開設しました。地域や関係者の方々とごく自然に繋がった安心できるグループホームを目指しています。
私たちは、入居者の皆さまが、安心して毎日その人らしく生活が継続できる様に寄り添いながら支援するとともに、ご家族・ご関係者・地域の人、すべての人に丁寧に対応することを目指しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和7年1月14日	評価機関 評価決定日	令和7年3月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR相模線「上溝」駅から坂を登り、徒歩15分ほどの住宅地にあります。木造2階建て2ユニットに男性9人女性9人の18人が生活しています。設立4年目ながら地域包括支援センターや自治会とも連携し、地域に密着したグループホームです。
＜優れている点＞
大きく掲げる理念ではなく、事業所の「目指す施設」像と「目標①成し遂げたいこと、②具体的行動」を掲げ、分かりやすく具体的な指針があります。「丁寧に」がベースになっていて、職員が支援に迷っても「丁寧に」のキーワードを考えることでどんな時も良い方法を見つけることができています。毎月のユニット会議では毎回モニタリングし、利用者の状況を個別に全員が把握しています。敷地内の花壇に野菜を植え、草取りをし、収穫をしています。利用者が外に出るきっかけや喜びとなっています。ために研修を行い、職員の理解とスキルアップに繋がっています。家族や地域からの参加を得て運営推進会議が活発に行われています。
＜工夫点＞
医療関係者への連絡用に「医療介護連携情報シート」があります。チェック形式で記入が簡単、一目で状況が分かり活用しています。その他、「情報ノート」「支援経過記録」などで利用者の状況を把握しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	アクア陽光台グループホーム
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	目指す姿として『私たちは私たちを含め、利用者・家族・（この施設の）関係者・地域の人、すべての人に丁寧に対応する』を事務所に掲示しています。	4年前の開設時に職員とも話し合いながら、高邁な大きな理念ではなく、取り組みやすい具体的な「目指す施設」「支援の目標」を指針として作成しています。「利用者の立場に立った丁寧な対応」に集約され、すべての支援の基本となっています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナが5類となり徐々に地域活動も行われるようになりました。近隣の障害者施設のお祭りに利用者と参加しました。自治会には賛助会員として加入しています。	新設から4年たち落ち着いてきています。松葉自治会の範囲に障害者施設やグループホーム、高齢者施設、小学校があり、交流があります。近くにある光が丘地域包括支援センターとも連携しています。自治会の行事にこれから参加していこうとしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	問い合わせに対してはわかり易い言葉で説明をしています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月のペースでの開催となっています。	2ヶ月ごとに利用者家族、自治会々長、地域包括支援センター職員などが参加し、活発な意見交換をしています。自治会長から町内の盗難事件や防犯カメラ設置などの情報提供があります。災害などで協力し合う共助の関係を目指しています。	現在のメンバーに加え、民生委員の参加もあればさらに情報交換の内容も広がることと期待されます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活支援課、福祉基盤課、高齢・障害者相談課などと連絡を取りながら、成年後見制度を進めております。	中央区、南区の利用者がおり、生活保護の利用者の相談に生活支援課へ、介護保険更新時や法解釈、成年後見制度について高齢・障害者相談課などに話を聞いています。年に3～4回開催される15事業所が参加する相模原市グループホーム連絡会の会議に出席しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	拘束は犯罪であるという認識し、日々ケアに取り組んでいます。	身体拘束の研修はリアルで行っています。あらかじめ管理者が作成した資料をメールで配信し、当日はユニットリーダーが指導者となって理解度テストや事例検討を行っています。スピーチロックについて、利用者をよく観察し利用者の気持ちになって丁寧に対応することを心がけています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待につながる恐れのある不適切なケアについて資料を配布し、情報共有できる様努めています。	ユニットリーダーが職員のストレス管理をしています。体調に配慮し、休憩時間は1時間あります。休みもシフト調整のなかで取れています。毎年、スタッフ用・管理者用の県の自己点検シートでチェックをしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	支援を必要とされる利用者様の状態や様子を見過ごしてしまうことのないように、高齢・障害者相談課の担当者の方々へのご連絡とご相談を適宜行い、問題が滞留しないよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	難しい内容も包括されているので、誤解を生じない様に納得がいくまでお話しさせて頂いています。また、必要に応じて専門部署の担当より、時間を掛けてご説明しご理解頂けるよう努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話や面会時に忌憚ないご意見を伺い、職員共通の認識を持つことに努めています。	面会や電話などの際、また、月に1度、請求書や必要な人への要件を書いた送付状などと一緒に「陽光台便り」を発送し、意見を聞く機会としています。家族と信頼関係が取れており、率直な意見をもらえています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のフロアー会議では、前以て全員から意見を寄せてもらい検討をし、リーダー会議に上がった項目については職員へのフィードバックを行っています。	月1回、ユニット会議があり会議の前に状況に変化のある利用者のアセスメントやモニタリングを提出してもらって会議の効率を向上させています。ユニット会議、リーダー会議などで意見や課題を話し合い運営に反映しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は個々の職員とのコミュニケーションを図り、定期的あるいは必要に応じた面接を行って、職場での問題や不安の解消に努めています。	熱いおしぼりシートが自動的に出るおしぼり機で作業の効率や職員負担の軽減を図っています。休憩室があり、休憩時間は1時間取れています。必要があれば管理者は面談して話を聞いています。チームワークを保つよう努めています。	日報や申し送りなどほとんどの記録が手書きとなっています。効率化や負担軽減、情報共有のためにもタブレット使用など、記録のICT化が期待されます。
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本社教育研修課が中心となり、月次研修を計画し開催している。中核となる職員に対してはステップアップ研修を定期的開催している。	法人指導で計画的に研修を行っています。資料が送られてきて読み込んだ後、WEBで研修を受講しています。内部研修もあります。管理者が資料を配信し、リアルで研修を行っています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	相模原市グループホーム連絡会への参加や相互交流にて得た情報を、法人内5施設の事例検討会にて共有しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談により状態を把握し、ご本人やご家族の要望などを聞き取りして、ご本人には安心して生活して頂ける様に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面談により状態を把握し、ご本人やご家族の要望などを聞き取りして、ご本人には安心して生活して頂ける様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人やご家族との話し合いの中で、先ずどのような支援が必要なのかを見極め、サービス内容の調整を行い、提供できる様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	支援をしてあげていると云う意識を持たず、家事等を協力し合って行い、他者とも和やかに生活できる様に心掛けています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の面会時にはご様子などを丁寧にお伝えし、また質問にも応じる等、信頼関係を築けるように努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族を通してご本人の生活歴等を伺いながら、ご本人に寄り添った支援を心掛けています。また、感染対策のご協力をいただきながらご家族との外出の機会を支援しています。	家族の来訪時は居室に案内しています。家族と外出し、墓参りや好きなうどんを食べに行ったりしています。職員と自治会のどんど焼きに出かけた人もいます。民謡が好きな人は動画のカラオケで歌うなど、趣味を忘れないよう継続の支援をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係性について、スタッフで共有し注意深く見守りを行い、円滑に生活が営めるように努めています。また、個別にお話を伺い、孤立しない様に支援することを心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	お手紙やその他の機会をとらえて、ご本人の様子などを伺い、ご家族のお話し相手、ご相談の受け皿になるよう努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の関わりの中で、会話などコミュニケーションを密に取りながら把握に努めています。また、ご家族や関係者からの情報を得る事も大切に受け止めています。	思いはきっとあると常に意識しています。マンツーマンの介護の中で、また、買い物に同行した時などにポロッと本音が出ることがあります。よく観察し、「閉じ込められた感」に対しては、丁寧に話を聴いて気持ちを和らげるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人はもとよりご家族の協力を頂きながら、継続的な把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者お一人お一人の生活リズムを大切に、日々変化する状態の把握に努めています。できる事、できない事を正確に理解し、できる事への働きかけに努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人やご家族の思いと意見を正確に聞き取り、職員全体での意見交換やモニタリングを行い、カンファレンスを実施しています。	毎月のユニット会議でモニタリングをし、全員で個々の利用者の状況把握をしています。6ヶ月ごとに介護計画を見直していますが、変化のある場合はその都度検討しています。丁寧なモニタリングと支援で介護度が5から4に下がった人もいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員の気づきやご本人の状態の変化は逐次、支援経過記録に記載して朝礼時に職員間の情報の共有を図り、フローア会議においては意見交換を行って介護計画の見直しの資料としています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人の状態やご家族の意向に配慮しながら臨機応変に対応できるように、スタッフも柔軟に対応することに日々努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域商店での買い物支援、隣接した農園活動など、ご本人が積極的に参加できる機会を捉えて、支援に努めています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設の協力医の往診のほか、必要に応じて、ご本人やご家族の希望に添った受診や通院への対応を行っています	リスク管理上、2つクリニックが訪問診療のかかりつけ医となっています。診察の前に「医療介護連携情報シート」をFAXし、情報提供をしています。手書きの詳細な申し送りノートは看護師も参考にしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に一度、看護師に日常の個々の状態や変化を報告書し、健康管理、医療面での相談、助言、対応を行って貰っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関への情報提供をしっかりと行い、またご家族とも回復状態やご本人の様子について情報交換をしながら、速やかな退院支援に結び付くよう支援しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人やご家族の意向を踏まえ、医師、看護師、介護職員が連携を取りながら、安心して且つ納得のいった最期を迎えられる様に取り組んでいます。	重度化した場合の自然な看取りについて同意書をもらっています。緊急搬送されたケースで、病院から処置についての意思確認を問われたことがあり、今後は延命処置などの対応について入居時に同意書をもらうことにしています。現在は家族に相談しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AEDを設置しました。研修や消防署の協力による訓練を通し、救急手当や蘇生術の研修を行っています。全ての職員が落ち着いて緊急時の対応ができるよう努めています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルの整備、防災研修会、訓練を通して職員全体の意識を高めると共に、災害時用備蓄品を確保しています。	通報・消火訓練では消防署から指導を受けています。木造とはいえ新しい建物で強固に造られているので災害時はこもることとしています。備蓄は法人から定期的に3日分の食料と水の提供があります。避難訓練時に備蓄分を回転させています。普段からトイレや入浴に使用している井戸水があり、断水時も安心です。	ユニットは動線確保のために物も少なく問題ありませんが、事務所では机やパソコン、モニターの固定など安全対策が期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人のお話やご家族を通して、お一人お一人の個性や生活しておられた環境などを把握し、日常において特に職員が会話する際には不快な気持ちを抱かせてしまう事がないよう努めています。	接遇研修を毎年行っています。法人から資料が届き、全員で読み込み、チェックシートなどで学んでいます。呼び名も普段はくだけた感じでも場所をわきまえて使い分けています。食べられない時に少しでも食べられると皆で喜んで気分を盛り上げています。丁寧な対応に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常にご本人のご希望を伺った上で、生活の支援をすることに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	決まった時間に決まった事をするのではなく、各入居者の方のその日、その時間の状態やペースに合わせ、ご希望を伺った上での外出や趣味の活動を支援するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々の支援の必要性に応じて、季節気候の話題の提供、行事や気温などを踏まえた声掛けを行っています。また、出来るだけご本人の意向を尊重し、それに合わせた支援を行っています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食後の片づけは利用者と一緒に行うことが日課となっています。行事食やお楽しみメニューを取り入れたり、工程を分担し一緒に調理をしています。	法人一括で業者からメニューと食材が届き、職員が調理しています。行事では普段より少しグレードを上げて特別な日としています。誕生日会やクリスマスではケーキを楽しんでいます。全員での外食はなかなかできませんが、家族と通院や買い物の後、食事をしたりしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立の栄養バランスに配慮し、個々の摂取量を残食量から大まかに把握することに努めています。水分摂取量については、午前中、午後3時まで、一日終了時と云うように正確に把握して、補水の提供を含めて管理するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後には必ず口腔ケアへの誘導を行い、個々の必要性に応じて、職員が必ず声掛け、見守り、介助を実施しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録表をもとに、時間が空いている場合には尿意が無い時にも無理のない誘導を心掛けています。便意が無い場合にも同様にトイレへお誘いしています。それぞれの必要に応じた、見守り、一部介助、全介助を行っています。	便通については一人ずつのタイミングを把握し、便秘がひどくならないうちに対処しています。食前、食後の定時誘導の他、トイレサインの都度対応しています。夜間は睡眠を優先しています。居室にポータブルを置いている人はいません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日中の排泄記録の確認、日中から夜勤帯への排泄記録の確認は徹底して行っています。訪問診療医と連携し、個々の排泄パターンを把握した下剤の調整を行っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴はリラックスできる楽しい時間であるように個々の好みに応じた浴室、室温、湯温などに配慮しています。また、異性介助を好まない入居者の方には配慮をするよう、入浴担当などの工夫をしています。	浴槽は床から低い造りで両端は座るのに十分な幅があり、楽に入ることができます。一人で入りたい人もいて、様子を確認しながら入ってもらっています。リラックスして歌う人もいます。入浴前はバイタルチェックをし、入浴後は、医師の指示で保湿クリームを塗っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々に合わせた生活支援は出来ていると思います。昼夜逆転にならないように日中の活動などを工夫する努力をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は診療情報と処方箋に添って正確な把握をしていますが、ご本人が薬の必要性を理解できていない場合があるため、コミュニケーションが取りづらいことがあります。常に正確な服薬を実施し、確認するよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者様ができるところはご自身で行って頂き、見守りを行っております。嗜好品は個別に用意しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご家族の協力で外出されることを支援しています。日常では職員がマンツーマンで外気浴や散歩をしています。	介護度が進み外出は課題です。駐車場に出たり、敷地内の植え込みで野菜を栽培して外気を浴びています。職員と散歩をする場合も、一回りするルートがなく、途中まで行って戻ってきています。家族と一緒に買い物や外食をすることを支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の管理が難しい為、事務所のお預り金として管理しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人のご希望で電話が掛けられるようにフロアーの電話機をお使い頂いています。他の入居者の方々への配慮やプライバシーの問題もあるので、通話は居室内でして頂くようお願いしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室、浴室、洗面所、トイレは常に清掃と消毒を行って清潔で過ごしやすい環境作りを心掛けています。また、食堂には入居者の方と一緒に作成した季節の飾り付けを行い、敷地内の花壇で季節の花や野菜を育て楽しんでいきます。	新しい建物で居室やトイレ、浴室も明るく快適です。廊下の壁には職員と利用者が折り紙やカラー用紙で制作した季節の壁飾りや、正月の書き初めが飾られていてアットホームな雰囲気があります。日中はリビングの自分の席で、テレビを見たり、おしゃべりをして居心地よく過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者の方々の性格などに配慮し、また、気の合う人、合わない人のコミュニケーションなどを注意深く観察して状況に合わせた食卓の席替えを行っています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	定期的に居室に伺って、ご本人と一緒に衣類や調度品の整理整頓に努めています。物品の移動や処分についてはご本人やご家族の意向を確認し、必ず了解を頂いたうえで行っています。	居室担当があり、季節の衣替えなどを利用者と共に行っています。転倒リスクのある人の居室は家具を置かず広くしたり、ベッドを低く設定しています。自宅から持ち込んだタンスを配置し、壁にはレクリエーションで作った作品を飾って自分らしい居室としています。毎朝、換気をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者のできることやわかることに配慮しながら安全を心掛けて見守り、支援を行う様にしています。		

事業所名	アクア陽光台グループホーム
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
		○	3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
		○	3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
		○	3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	目指す姿として『私たちは私たちを含め、利用者・家族・（この施設の）関係者・地域の人、すべての人に丁寧に対応する』を事務所に掲示しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナが5類となり徐々に地域活動も行われるようになりました。近隣の障害者施設のお祭りに利用者と参加しました。自治会には賛助会員として加入しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	問い合わせに対してはわかり易い言葉で説明をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月のペースでの開催となっています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活支援課、福祉基盤課、高齢・障害者相談課などと連絡を取りながら、成年後見制度を進めております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	拘束は犯罪であるという認識し、日々ケアに取り組んでいます。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待につながる恐れのある不適切なケアについて資料を配布し、情報共有できる様努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	支援を必要とされる利用者様の状態や様子を見過ごしてしまうことのないように、高齢・障害者相談課の担当者の方々へのご連絡とご相談を適宜行い、問題が滞留しないよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	難しい内容も包括されているので、誤解を生じない様に納得がいくまでお話させて頂いています。また、必要に応じて専門部署の担当より、時間を掛けてご説明しご理解頂けるよう努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話や面会時に忌憚ないご意見を伺い、職員共通の認識を持つことに努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のフロアー会議では、前以て全員から意見を寄せてもらい検討をし、リーダー会議に上がった項目については職員へのフィードバックを行っています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は個々の職員とのコミュニケーションを図り、定期的あるいは必要に応じた面接を行って、職場での問題や不安の解消に努めています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本社教育研修課が中心となり、月次研修を計画し開催している。中核となる職員に対してはステップアップ研修を定期的に開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	相模原市グループホーム連絡会への参加や相互交流にて得た情報を、法人内5施設の事例検討会にて共有しています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談により状態を把握し、ご本人やご家族の要望などを聞き取りして、ご本人には安心して生活して頂ける様に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面談により状態を把握し、ご本人やご家族の要望などを聞き取りして、ご本人には安心して生活して頂ける様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人やご家族との話し合いの中で、先ずどのような支援が必要なのかを見極め、サービス内容の調整を行い、提供できる様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	支援をしてあげていると云う意識を持たず、家事等を協力し合って行い、他者とも和やかに生活できる様に心掛けています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の面会時にはご様子などを丁寧にお伝えし、また質問にも応じる等、信頼関係を築けるように努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族を通してご本人の生活歴等を伺いながら、ご本人に寄り添った支援を心掛けています。また、感染対策のご協力をいただきながらご家族との外出の機会を支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係性について、スタッフで共有し注意深く見守りを行い、円滑に生活が営めるように努めています。また、個別にお話を伺い、孤立しない様に支援することを心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	お手紙やその他の機会をとらえて、ご本人の様子などを伺い、ご家族のお話し相手、ご相談の受け皿になるよう努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の関わりの中で、会話などコミュニケーションを密に取りながら把握に努めています。また、ご家族や関係者からの情報を得る事も大切に受け止めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人はもとよりご家族の協力を頂きながら、継続的な把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者お一人お一人の生活リズムを大切に、日々変化する状態の把握に努めています。できる事、できない事を正確に理解し、できる事への働きかけに努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人やご家族の思いと意見を正確に聞き取り、職員全体での意見交換やモニタリングを行い、カンファレンスを実施しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員の気づきやご本人の状態の変化は逐次、支援経過記録に記載して朝礼時に職員間の情報の共有を図り、フローア会議においては意見交換を行って介護計画の見直しの資料としています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人の状態やご家族の意向に配慮しながら臨機応変に対応できるように、スタッフも柔軟に対応することに日々努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域商店での買い物支援、隣接した農園活動など、ご本人が積極的に参加できる機会を捉えて、支援に努めています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設の協力医の往診のほか、必要に応じて、ご本人やご家族の希望に添った受診や通院への対応を行っています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に一度、看護師に日常の個々の状態や変化を報告書し、健康管理、医療面での相談、助言、対応を行って貰っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関への情報提供をしっかりと行い、またご家族とも回復状態やご本人の様子について情報交換をしながら、速やかな退院支援に結び付くよう支援しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人やご家族の意向を踏まえ、医師、看護師、介護職員が連携を取りながら、安心して且つ納得のいった最期を迎えられる様に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AEDを設置しました。研修や消防署の協力による訓練を通し、救急手当や蘇生術の研修を行っています。全ての職員が落ち着いて緊急時の対応ができるよう努めています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルの整備、防災研修会、訓練を通して職員全体の意識を高めると共に、災害時用備蓄品を確保しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人のお話やご家族を通して、お一人お一人の個性や生活しておられた環境などを把握し、日常において特に職員が会話する際には不快な気持ちを抱かせてしまう事がないよう努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常にご本人のご希望を伺った上で、生活の支援をすることに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	決まった時間に決まった事をするのではなく、各入居者の方のその日、その時間の状態やペースに合わせ、ご希望を伺った上での外出や趣味の活動を支援するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々の支援の必要性に応じて、季節気候の話題の提供、行事や気温などを踏まえた声掛けを行っています。また、出来るだけご本人の意向を尊重し、それに合わせた支援を行っています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食後の片づけは利用者と一緒に行うことが日課となっています。行事食やお楽しみメニューを取り入れたり、工程を分担し一緒に調理をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立の栄養バランスに配慮し、個々の摂取量を残食量から大まかに把握することに努めています。水分摂取量については、午前中、午後3時まで、一日終了時と云うように正確に把握して、補水の提供を含めて管理するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後には必ず口腔ケアへの誘導を行い、個々の必要性に応じて、職員が必ず声掛け、見守り、介助を実施しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録表をもとに、時間が空いている場合には尿意が無い時にも無理のない誘導を心掛けています。便意が無い場合にも同様にトイレへお誘いしています。それぞれの必要に応じた、見守り、一部介助、全介助を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日中の排泄記録の確認、日中から夜勤帯への排泄記録の確認は徹底して行っています。訪問診療医と連携し、個々の排泄パターンを把握した下剤の調整を行っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴はリラックスできる楽しい時間であるように個々の好みに応じた浴室、室温、湯温などに配慮しています。また、異性介助を好まない入居者の方には配慮をするよう、入浴担当などの工夫をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々に合わせた生活支援は出来ていると思います。昼夜逆転にならないように日中の活動などを工夫する努力をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は診療情報と処方箋に添って正確な把握をしていますが、ご本人が薬の必要性を理解できていない場合があるため、コミュニケーションが取りづらいことがあります。常に正確な服薬を実施し、確認するよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者様ができるところはご自身で行って頂き、見守りを行っております。嗜好品は個別に用意しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご家族の協力で外出されることを支援しています。日常では職員がマンツーマンで外気浴や散歩をしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の管理が難しい為、事務所のお預り金として管理しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人のご希望で電話が掛けられるようにフロアーの電話機をお使い頂いています。他の入居者の方々への配慮やプライバシーの問題もあるので、通話は居室内でして頂くようお願いしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室、浴室、洗面所、トイレは常に清掃と消毒を行って清潔で過ごしやすい環境作りを心掛けています。また、食堂には入居者の方と一緒に作成した季節の飾り付けを行い、敷地内の花壇で季節の花や野菜を育てて楽しんでいます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者の方々の性格などに配慮し、また、気の合う人、合わない人のコミュニケーションなどを注意深く観察して状況に合わせた食卓の席替えを行っています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	定期的に居室に伺って、ご本人と一緒に衣類や調度品の整理整頓に努めています。物品の移動や処分についてはご本人やご家族の意向を確認し、必ず了解を頂いたうえで行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者のできることやわかることに配慮しながら安全を心掛けて見守り、支援を行う様にしています。		

2024年度

事業所名 アクア陽光台グループホーム
作成日： 2025年4月23日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	自己 評価 3 5	○災害対策 ユニットは動線確保のために 物も少なく問題 ありませんが、事務所では机やパソコ ン、モ ニターの固定など安全対策が期待されます。	災害への備えを重点課題として改善し ていく。	①家具や家電等の転倒防止対策実施 ②災害持出品の保管方法の見直し ③BCPの勉強会や訓練の定期的開催	12ヶ月
2	自己 評価 4	○運営推進会議を活かした取組み 現在のメンバーに加え、民生委員の参加もあれ ばさらに情報交換の内容も広がることと期待さ れます。	運営推進会議への参加率を高める (外部評価以降で民生委員さんにはメン バーとなっていていただき参加してもら えている。)	①運営状況や課題など会議で話し合っ た内容を参加されなかった方へ発信 し、参加または情報提供など募る。	12ヶ月
3	自己 評価 1 2	○就業環境の整備 日報や申し送りなどほとんど の記録が手書き となっています。効率化や負担軽減、情報 共 有のためにもタブレット使用など、記録のICT 化が期待されます。	ICT化には費用が掛かり、法人内での調 整や検討が必要である。 個人情報の保護を優先し、現状のリ ソース（メールやSMS、SNS）の利用を 進める。	①運営情報や研修資料の配布等の利用 を継続する ②情報共有できる形の運営を試みる。 (相互通信環境の構築)	12ヶ月
4					
5					